



申8号

「首都圏における拠点配置体制の一部見直しについて」 に関する申し入れ **団体交渉を行う!(その2)**

第3項 信号の拠点体制において、移転および隔日実施する根拠ならびに水戸支社管内に拠点を配置しない根拠を明らかにすること。

- 組合
- 今回、土浦拠点が廃止され、小山が宇都宮に移転される。土浦廃止に伴い水戸に移転しない理由は何か。
 - 輸送障害が発生した場合、安全・安定輸送をいかに守っていくのかと確認したが、水戸支社に拠点を置かない判断は間違いではないのか。出勤回数が少ないとの理由で廃止することに対して、本当にそれで良いのか。本社の判断となれば、異常時や初動対応は、水戸支社だけの責任にはならない。そのことについて強い問題意識がある！

会社(電気)

- 出勤実績に基づいて一律で判断している。土浦は、出勤実績が相当程度少ない。よって廃止と判断した。
- 懸念は伺ったが、出勤回数は1つの判断基準である。他の箇所と比べて相当数の出勤実績が少ないことから判断したものである。

主張 拠点配置体制の意義に踏まえ、水戸支社内に体制を組むべきだ！



第4項 拠点の一部を廃止することに伴い発生する足ロスの対策を明らかにすること。

- 組合
- 拠点配置体制を一部見直すことで、足ロスは発生するのか。
 - 当時も労使議論してきたが、会社の足ロスに対する考え方について変更はあるか。
 - 足ロスによって、運転開始時間が今まで以上に時間がかかることも箇所によって想定される。

会社(共通)

- 体制の廃止を行うので、足ロスについては発生する。
- 足ロスは、少ない方が良い。社会的な環境も変わってきている。高速道路建設、実際の故障頻度、道路の渋滞具合など。新型コロナウイルスの関係があって、本来もう少し早く実現すべきだったがこのタイミングになった。潜在的には見直すべきだった。貴側の申し入れは、価値観として合致する部分もある。足ロスについてはなければ復旧のダウンタイムがなくなるので良いが、復旧や頻度について考えて今回見直した。電気も同様である。
- 重要線区は、体制を整えて対応するが、それ以外の線区は、一定の許容がある。今回の見直しは、重点線区に振り分けていく。足ロスは、多少出る。しかし、それに対応する社員が悪いわけではない。

確認

体制の廃止による足ロスは発生する。

早期復旧に向けて職場は対応するが、足ロスによって運転再開時間が今まで以上となること、列車抑止が長時間発生する場合もある。

指令、支社、駅や乗務員に対して、足ロスが発生することの周知徹底を行うこと。

その3に続く